

授業の玉手箱

「Creative であること」

中井 弘一

創造への4段階 [Wallas Graham(1949). *The Art of Thought*] は、

- 1 preparation (準備)
- 2 incubation (あため)
- 3 illumination (ひらめき)
- 4 verification (検証)

と言われる。いきなりアイデアを思いつくことはない。日頃からアンテナを張って、これはと感じる様々なものを収集していく。それらをニトリが卵を温めるように大切にしておく。温められた素材から現状の課題に対応するアイデアがひらめきで生まれてくる。収集した様々な情報や実物を活用するには、受け持つ生徒に応じて学ぶ意欲を喚起させ、教材内容を定着させるプロセスを考え認識しておくことが大切である。そうした認識がないと、やみくもに授業展開しても迷うばかりである。

「右手は事をなすもの - 論理・知識・科学、左手は夢を見るもの - 直観・創造・芸術、右手を持って知識に到達しようというのが科学、その科学におけるもろもろの仮説は左手の賜物」とブルーナーは言う。感覚的に物事を瞬時に感じると「直感」でなく、直接対象をとらえる「直観」による創作に必要な論理思考の3要素は、「Issue 問題課題の明確化：何を考えるべきか整理をして課題を絞る」「Zero-base 常識に縛られない：可能性を否定せず広く考える」「Core 深く考える：深く掘り下げて考える」である。固定概念(思い込み)に左右されやすい教員は、特に“現状の制約に惑わされない”“ゼロスタートで考える”“余分なものは捨てる”ということを意識してみてもどうか。

書籍紹介

『ビジネス・キャッツプロジェクトで学ぶ 実践ビジネス英語』

寺内はじめ (編著) 2010 南雲堂 1890 円
207 ページ



今回は少し“毛色”の変った書籍を紹介したいと思う。『ビジネス・キャッツ』はビジネス英語プレゼンテーション・会話の教本で、ビジネスシーンで一つのプロジェクトを追って、実践的に英語が学べるように書かれている。プロジェクトの準備、市場分析、上層部の説得、新製品の販売活動、クレーム処理、売上結果の報告など、シーン別にビジネスの現場でのやり取りを最大限再現しようとの工夫がなされている。同時に、Taro Nekono 氏を主人公にしたユーモアたっぷりの設定である。キャッツのイラストを楽しみながら読み進めるうちに、気が付いてみればすっかり引き込まれている。ビジネスを目指す読者にとっても、ビジネスこぼれ話はおもしろくためになるし、説得やクレーム処理の章は日米の文化差を踏まえたコミュニケーション実践の具体的なティップを示してくれる。書籍とは別に、ウェブ上 (<http://business-cats.net/>) で音声ファイルがダウンロードできるのも便利だ。

実は本書は、ESP(English for Specific Purposes)の観点を極めた秀作であり、ビジネス専門家と英語教育専門家、日本人と英語母語話者、計7人の究極のコラボレーションの産物である。ビジネスコミュニティで用いられる言語表現を周到に分析し、特徴的言語パターンを抽出し、それらを巧みに取り込んで教材に仕上げられているのである。ジャンル分析の視点、「使える英語」への切り口がここに具現化されているといつてよい。

“毛色”は変わっているが、“毛並のよさ”は保証できる1冊である。
(東條 加寿子)

大阪女学院大学「教員免許状更新講習1・2」 平成24年度講習

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

各講習：中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計30名

■講習1 平成24年8月6日(月) 9:10 ~ 16:40

「教材の開発 - その基盤となる考え方と工夫 -」

・教材開発に役立つジャンルの考え方

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・教材開発の方法 - 教材を見る視点、使う視点、開発する工夫 -

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【教材開発に役立つジャンルの考え方】英語の授業ではさまざまな教材が使われる。英語教材のジャンルに注目して、それぞれのジャンルに固有な言語的特徴をどのように見つけて教材化するかを、事例を挙げながら考える。【教材開発の方法】教材を見る視点、教材を使う視点について検討し、それらの視点を基にワークシートや補助教材作成のデザインなど教材開発の工夫を試みる。さいごにマザーグースの世界を教材として紹介する。

■講習2 平成24年8月7日(火) 9:10 ~ 16:40

「体験型ワークショップ・クリニック: 音声で拓く英語の指導のために」

・発音の向上と発音指導の方法

夫 明美 大阪女学院短期大学 准教授

・英語リスニングのクリニック

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・音読パフォーマンス

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【発音の向上と発音指導の方法】体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習及び発音指導のヒントについて考える。【英語リスニングのクリニック】英語の音声は音素・音韻レベルから語、句、文レベルへ、さらにまとまった内容のある素材の中でどのように表れているか、リスニングのハードルとなっている要因を段階的に追う。【音読パフォーマンス】「教科書テキスト」「詩」「映画セリフ」「絵本」「ニュース」「早口ことば」など様々な素材を使った音読パフォーマンス。

■受講申し込み受付

平成24年4月16日(月)より7月20日(金)までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。(申込方法) 教員養成センターメールアドレス (ttc@wilmina.ac.jp)宛に、1) お名前(漢字・ふりがな) 2) メールアドレス 3) ご連絡先電話番号 4) ご勤務先・所属等 5) 希望講習を明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○受講料 3,000 円 (所定の口座へ振り込み)



編集後記

本学の英語名が Osaka Jogakuin College から Osaka Jogakuin University へと改称しました。そこで、ロゴマークも一新。OJU の3つの頭文字を使い、チューバのような大きな楽器ですべてのメロディーのベースとなる音をリズムカルにかつ重厚に奏でているイメージとしました。心に響く教育の基盤を築きあげたいと考えています。教員養成センターも Teacher Development Support Center として学校現場の先生とともに明日の教育を担っていきたくと考えています。

この Newsletter も、本学教職専修の活動や皆様との教員養成センター活動の報告、教育情報の提供など、さらなる充実につとめてゆきます。ご支援よろしくお祈りいたします。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学 教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp